○オオボロギクについて（淺井康宏）　Yasuhiro Asai: On a Japanese name for *Erechtites hieracifolia* (L.) Raf.

北アメリカ原産のダンドボロギクに対する別和名として，オオボロギクなる名が一部で使われている。これは本植物の草姿に即したもので，一般人にもわかりやすい。

この名の存在については，かつて久内清孝先生からも承ったこともあったが，その出典については不明であった。頃日，これが第二次大戦後に，牧野富太郎先生が提唱されたものであることが，昭和28年（1953）に伊達健夫氏へ宛てられた書簡（7月23日付）から明らかになったので，ここにご紹介しておきたい。貴重な牧野先生からの私信を披見させて下さった同氏に深謝する。　（東京歯科大学）

□Nayar M, P. & A. R. K. Sastry: **Red data book of Indian plants, vol. 1** 371 pp. 1987（ただし，評者が入手したのは1990年3月である）. Botanical Survey of India. US. $48. 植物の絶滅危惧種の問題についてのインドの対応は，1969年からスタートとした。その結果が1980年に刊行された Threatened plants of India である。その後，1980-1985年に米国の資金援助を受けて，POSSCEF と略称されるより本格的な調査が進められた。本書はその成果であり，科名のアルファベット順にAからSのイワヒバ科まで，合計235種の絶滅が危惧されるインド特産種が記載されている。記述は各国の red data book に準じており，各種ごとに，現状，分布，生育地・環境，保護にかかわる対策，生物学的意義，記載，文献の順で要領よくまとめてある。多くの種に図が添えられている。　（大場秀章）

□Beccari, O.: **Wanderings in the great forests of Borneo** 424 pp. 1989. Oxford Univ. Press, Singapore. ¥ca. 2,000. 本書は1865年から1877年にかけて，ボルネオ（サラワク）を訪ね彼地の植物を研究した，イタリヤのヤシ科の分類を専門とした植物学者 Odoardo Beccari のノートと日記をもとに綴られた紀行である。1865年の最初の旅行のとき，22歳であった Beccari は，ここで受けた強烈な植物・自然・社会の印象を真摯な筆で描いている。近代文明の影響を受ける以前のサラワクの様子が伝わってきて興味深い。本書は，はじめ Nelle foreste di Borneo として，1902年にフィレンツェで出版された。続いて，1904年に E. H. Giglioli の翻訳でロンドンの Archibald Constable & Co. Ltd. で出版され，1986年に Asia Hardback Reprints のひとつとして Oxford University Press から復刻された。1989年版はそのペーパーバック版である。復刻版とペーパバック版に収められた，Cranbrook の前書きは，Beccari 小伝ともいうべき内容のもので，このイタリヤの植物学者の一生を知るうえで興味深い。

（大場秀章）